

熊本城 復興に向けて

〈4〉鎮台(陸軍)による熊本城改変

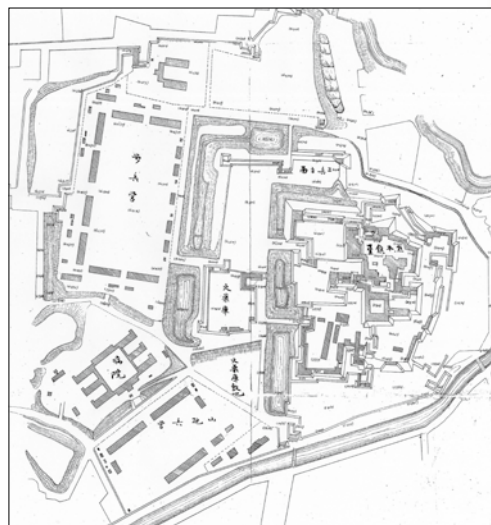
明治3年以降、古城(現県立第一高校敷地)では櫓・塀が撤去され、洋学校や医学校が建設されていました。明治6年1月に鎮西鎮台が熊本鎮台と改称され、同年6月に鎮台本営が花畑旧藩邸から本丸御殿に移転すると、これを契機に城内に鎮台施設が建設されていくことになります。二の丸には歩兵第十三連隊の大規模兵舎建設が計画され、明治8年4月に工事が終わり、兵舎が完成します。明治9年4月には工兵第六小隊が発足し、その後棒庵坂下に移転します。同年8月、三の丸の「二の丸屋敷」跡地(現細川刑部邸)が野砲※1兵の兵舎用地となり、古城では11月に県庁が二本木から古城に移転し、洋学校の廃校で臨時裁判所や県警本部が設置されました。変貌著しい時代ですが、明治8年の市街図によると、二の丸や三の丸、新町の交通の要所では馬具櫓・書物櫓など10の櫓や、二の丸御門・埋門・新三丁目門・高麗門など6の櫓門がまだ残っていました。

国立国会図書館所蔵の「城郭之図」は、西南戦争の半年前の明治9年8月から10月下旬の頃に熊本鎮台が熊本城主要部を測量したものです。鎮台が二の丸や三の丸で大規模な建設工事をしていた反面、本丸では歴史的建造物の多くを維持していたことがわかります。

本丸上段では大天守・小天守、その東の御裏五階櫓・長局櫓が石垣上に残っていて、本丸御殿は鎮台本営(本部)として使用されています。これらは西南戦争の戦闘直前の火災で焼失します。

天守西側の平左衛門丸でも宇土櫓・続櫓・御着部屋櫓が残っていますが、その南の数寄屋丸では石垣上の櫓や門が全て撤去され、三階櫓跡には号砲※2の増永砲二門が据えられました。飯田丸では、東側通路に元札櫓門・茶御櫓・五階櫓・札櫓門や元塩蔵が残っています。西側石垣上でも百間櫓や五階櫓・隅櫓・平櫓・三階櫓などがあり、曲輪※3中央には台所や道具蔵も残っていて、その南では鎮台が建てた長大な武器庫2棟が建てられています。現在も平櫓や不開門など

▶明治9年頃の熊本城
(国立国会図書館所蔵「城郭及市街之図」部分)



の重要文化財10棟が建ち並ぶ東竹の丸では、三間櫓や東櫓門、櫓番詰所が撤去されていて、本営に通じる東櫓門跡や不開門には哨兵(見張り)を配置し警戒していました。坪井川沿いの竹の丸では建物が全くありませんが、実際には馬具櫓や書物櫓が残っていました。

西出丸では、空堀に面した石垣の一部や未申櫓・西大手門・戌亥櫓が撤去されていましたが、南大手門・元太鼓櫓・北大手櫓門・井樋方櫓・御客方櫓は残っています。櫓方会所(現加藤神社)の櫓方隅櫓も残っていましたが、西南戦争時には撤去され台場※4となります。二の丸では二の丸御門や監物櫓などが残っていますが、第十三連隊の歩兵宿舎とその附属病院、衛戍病院(現熊本医療センター)、砲兵営(現城彩苑)など、鎮台の主要施設用地に変貌しています。

※1 野砲 …… 火砲(大砲など)の一種。

※2 号砲 …… 合図としてうちならす銃・大砲。

※3 曲輪 …… 土塁や石垣、堀などで区画された城内の一区画。

※4 台場 …… 砲兵や歩兵のための陣地。